

授業概要

経済経営学部でこれから4年間専門分野の勉強するために役立つ経済・経営分野の興味ある事柄について、書籍、新聞、雑誌等から素材を求め、皆で理解を深めるための勉強を進める。

併せて1985年～90年のバブル経済以降の日本経済について、テキスト藤井彰夫『日本経済入門』日経文庫を用いて、理解を深める。最初は輪読形式で、事項ごとに解説をしながら進める。

授業計画

| | |
|-------|----------------------------------|
| 第 1 回 | 大学で学ぶことの意味を考える。経済経営系学科の学問とは何か。 |
| 第 2 回 | 自己の将来の方向性を考えるために大学でいかに学ぶか。 |
| 第 3 回 | 経済学とは、経営学とは、簿記・会計学とは |
| 第 4 回 | 先進諸国はなぜ超低金利、マイナス金利なのか、金利とは何かを考える |
| 第 5 回 | バブル経済の時代 |
| 第 6 回 | バブル経済の崩壊と金融危機 |
| 第 7 回 | リーマンショックと世界金融危機 |
| 第 8 回 | 安倍のメックスの挑戦 |
| 第 9 回 | ICTと情報通信ネットワーク社会 |
| 第10回 | IoT, AI 第4次産業革命 |
| 第11回 | 所有や働き方が変わる |
| 第12回 | 進む少子化・高齢化 |
| 第13回 | 生産年齢人口の減少問題どうするか |
| 第14回 | 社会保障クライシス |
| 第15回 | ゼロ金利とデフレとの闘い |
| 第16回 | 総合的な質問時間、論文・レポートの作成方法を学ぶ |

到達目標

現代の経済・経営・会計分野に興味をもってこれらの分野の勉強に自学自習する能力の育成を目指す。

履修上の注意

テキスト等資料をよく読んでくること

予習・復習

前もってテキストの範囲指定・資料を渡すので、よく読んでくること。3回ごとに勉強した内容を、自己の意見を入れレポートにまとめ出させていただきます。

評価方法

課題提出 30 点、報告内容 20 点、最終課題レポート 50 点

テキスト

藤井彰夫。『日本経済入門』日経文庫
必要に応じて、適宜資料を配布する。

授業概要

いわゆるアベノミクスのもとで、円安が進み、株価も上昇してきました。景気も上向き、物価も上昇してきています。長かった超円高・デフレ不況もようやく終わることが期待されています。

本演習、戦後の日本経済と金融、資産バブル、平成大不況、政府の経済政策、日本銀行の金融政策について、くわしく指導します。

授業計画

| | |
|--------|------------------|
| 第 1 回 | 講義の概要 |
| 第 2 回 | 景気がよくなっているのか |
| 第 3 回 | GDP とはなにか |
| 第 4 回 | 戦後二番目の好景気というが |
| 第 5 回 | どうして賃金が上がらない |
| 第 6 回 | どうして物価が上がらない |
| 第 7 回 | 1 千兆円の政府の借金がある |
| 第 8 回 | 返せないとハイパー・インフレか |
| 第 9 回 | 企業は 400 兆円も儲けてる？ |
| 第 10 回 | 福祉予算はますます膨れ上がる |
| 第 11 回 | 日本銀行のマイナス金利とは |
| 第 12 回 | 預金すると利子を取られる？ |
| 第 13 回 | 銀行経営は悪化の一方 |
| 第 14 回 | オリンピック恐慌は来るか |
| 第 15 回 | 日本経済のゆくえは |
| 第 16 回 | 試験 |

到達目標

デフレが長期化した要因を理解したうえで、日本銀行の異次元緩和によって、本当にデフレを克服できるのかを明らかにします。

アベノミクスというものの概要を理解してもらうことを到達目標としています。

履修上の注意

演習をおこなっている間に、いよいよ、アベノミクスが成功するか否かが、見えてくるはずです。

ですから、新聞をよく読むことや日々のニュースに関心を持ってください。

予習・復習

演習では、資料や新聞記事などを読みます。

事前にわたす資料などを演習前によく読み、演習終了後には、復習してください。

評価方法

レポート（70%）、演習での発言（30%）などで評価します。

テキスト

テキストは使わず、適宜、資料を配ります。

授業概要

演習の課題は、大学で学ぶ目標をしっかりと持つこと、学ぶ楽しさを知ること、及び、読むこと、調べること、書くこと、報告することなど今後の就学に必要なスキルを修得することにある。大学で学ぶには、自分で自分の課題を見つけ、考え、解決に向けて進む意欲を持つことが大事になる。この演習に参加することで、学ぶことの意味をそれぞれに考え有意義な大学生活が過ごせるようになってほしい。

授業計画

| | |
|--------|---|
| 第 1 回 | 大学生活に慣れる①（自己紹介の文章作成報告、履修計画の作成） |
| 第 2 回 | 大学生活に慣れる②（大学での授業のあり方や規則、大学のホームページの利用） |
| 第 3 回 | 授業の受け方を体得する①（ノートのとり方、テキストの読み方） |
| 第 4 回 | 授業の受け方を体得する②（レポートの作成法） |
| 第 5 回 | 大学で学ぶ意味を考える（大学での目標、学力調査） |
| 第 6 回 | 企業について知り、意見をまとめる①（企業経営やプロジェクト運営、意見の報告） |
| 第 7 回 | 企業について知り、意見をまとめる②（企業経営やプロジェクト運営、意見の報告） |
| 第 8 回 | 時事問題を読み、自分の意見を文章にまとめる①（主要な時事問題、論者の意見をまとめる） |
| 第 9 回 | 時事問題を読み、自分の意見を文章にまとめる②（新聞の社説等を使って、自分の意見をまとめる） |
| 第 10 回 | わからない事項を調べる（図書館ツアーの実施、ネット検索などの方法） |
| 第 11 回 | 意見を発表し、討論する①（関心のあるテーマを調べ、レジュメにして作成し、報告する） |
| 第 12 回 | 意見を発表し、討論する②（関心のあるテーマを調べ、レジュメにして作成し、報告する） |
| 第 13 回 | 自分の将来について考える①（自分の適性を知り、将来の進路について考える） |
| 第 14 回 | 自分の将来について考える②（自分の適性を知り、将来の進路について考える） |
| 第 15 回 | 自分の将来について考える③（自分の適性を知り、将来の進路について考える） |
| 第 16 回 | 総括 |

到達目標

- 自分の課題について調べ、意見をまとめ、表現することができる。
- 政治や経済の時事問題が企業人・社会人にとって不可欠の問題であることを知る。
- 大学での学び方を体得する。

履修上の注意

1年次の学生は全員履修である。この演習の目的は、大学で学ぶための目標をしっかりと持つことにある。このため、よく調べて自分の意見をまとめ、授業時間内には仲間同士で積極的に議論してほしい。なお、学外活動を行う場合がある。

予習・復習

予習・復習は積極的に行い、授業中に指示された課題は必ず提出すること。

評価方法

授業への取り組み、課題の提出状況、レポートまたは試験により総合的に評価する。

テキスト

- 開講時に指示する。
- 必要に応じて、資料を配布する。

授業概要

いよいよグローバル化が本格化し、私達の日々の生活には地球レベルでの変化が直接的かつスピーディに影響することが現実的となってきた。地球の裏側で起きている出来事が、早いスピードで日本人の健康や経済にも直接的に影響を及ぼすことになってきた現状について、演習を通して理解を深められるよう指導する。具体的には、世界を客観的かつ俯瞰的に判断できる能力が醸成できるよう指導する。

授業計画

| | |
|------|------------------|
| 第1回 | 宇宙/地球 |
| 第2回 | 人間/植物と動物の違いは？ |
| 第3回 | 陸地と海洋 |
| 第4回 | 環境/気候、気温、風、水 等 |
| 第5回 | 愛とは？/家族とは？ |
| 第6回 | 人間関係とは？/共に生きるとは？ |
| 第7回 | テクノロジーとは？ |
| 第8回 | 食料とは？エネルギーとは？ |
| 第9回 | 政治/経済 |
| 第10回 | 人口増加/貧困問題 |
| 第11回 | 病気とは？障害とは？ |
| 第12回 | 健康と予防 |
| 第13回 | 医療とは？介護とは？福祉とは？ |
| 第14回 | 情報/知識 |
| 第15回 | ファクトフルネスという考え方 |
| 第16回 | 試験 |

到達目標

- ・地球レベルで様々な出来事が起きていることを理解できる。
- ・人間理解と人間を取り巻く様々な現象について理解を深める。
- ・私たちの生活は世界中との関係性において成り立っていることを理解する。
- ・ファクトフルネスの考え方を理解し、客観的な判断ができるようになる。

履修上の注意

休まず積極的に参加すること。

予習復習

事前に教科書をよく読んで、予習してくること。

評価方法

発表点 (25 点)、レポート点 (25 点)、学期末試験 (50 点)

テキスト

ハンス・ロスリング、『ファクトフルネス』、日経 BP 社、2020 年、1800 円

授業概要

経済、経営とは何かについて学ぶ最初の入り口となることを目指しています。そのための1つの手立てとして、日本の経済と企業について学習し理解することが有益です。第1に、日本の経済を構成する幾つかの主要な産業の実態や特徴、第2に、日本企業の海外進出、これらについて知ることです。特に、後者について学ぶ理由は、日本の多くの大企業の活動が、今日、顕著な国際化（グローバル化ともいいます）を遂げているからです。

この演習では、受講生の皆さんが、我が国の主要な産業や企業の現状、中国、アメリカなどでの日本企業の活動の実態などを知ること、現代経済と企業経営についての基礎的な理解が得られるように指導します

授業計画

| | |
|------|--------------------------------|
| 第1回 | 演習の進め方 |
| 第2回 | 大学で学ぶということ |
| 第3回 | 経済学と経営学 |
| 第4回 | 日本経済の現状を知る(1)－自動車産業 |
| 第5回 | 日本経済の現状を知る(2)－電気機械産業 |
| 第6回 | 日本経済の現状を知る(3)－鉄鋼業 |
| 第7回 | 日本経済の現状を知る(4)－繊維・アパレル産業 |
| 第8回 | 日本経済の現状を知る(5)－小売業・コンビニエンスストア |
| 第9回 | 日本経済の現状を知る(6)－化粧品産業 |
| 第10回 | 日本企業の国際化を知る(1)－企業の海外進出とは何か |
| 第11回 | 日本企業の国際化を知る(2)－台湾・韓国・東南アジアへの進出 |
| 第12回 | 日本企業の国際化を知る(3)－アメリカへの進出 |
| 第13回 | 日本企業の国際化を知る(4)－西ヨーロッパへの進出 |
| 第14回 | 日本企業の国際化を知る(5)－中国への進出 |
| 第15回 | 日本経済と日本企業の現段階 |
| 第16回 | 試験 |

到達目標

まず第1に、資料を読み込み、これに基づいて発表し、討論できるようになることです。第2に、日本経済と日本企業についての理解を深めることです。そして、第3に、企業の海外進出、外国での活動についての現状を知ることです。

履修上の注意

(1) 病気などの場合を除いて、毎回欠かさず出席してください。欠席の場合は、メールで事前に連絡してください（アドレスはのちに伝えます）。遅刻の場合は理由を説明してください。

(2) 演習のメンバーの意見を理解し、それに対して自分の考えを述べられるように心掛けてください。

予習・復習

事前に配布する資料をよく読んで予習してきてください。演習の終了後は、何を学んだか、資料などを読み直して復習してください。

評価方法

テキストの報告と討論への参加で60%、試験40%で評定します。

テキスト

教科書の使用は予定していません。学習・討論資料を予め配布します。

授業概要

本演習は、経営学専攻の学生にとっての「入門の入門」と位置づけ、経営学の基礎を概括的に修得するよう指導します。演習は配布するレジメを用いて進めます。1年次前期の学生が履修生となることを勘案し、議論への参加方法、講義中のノートのとり方等、基本的事項等についても指導します。

学んだ知識をもとに日本経済新聞や経営関連誌を自主的に読み進める習慣を身につけることは重要であり、履修生にはタイムリーな話題を提供して演習を活性化します。

授業計画

| | |
|------|----------------------|
| 第1回 | ガイダンス —大学での経営学の学習方法— |
| 第2回 | 企業の理解 |
| 第3回 | 企業の内部構造 |
| 第4回 | コーポレート・ガバナンス |
| 第5回 | 環境変化と企業の対応 |
| 第6回 | 企業経営と経営理念 |
| 第7回 | 経営戦略とは何か |
| 第8回 | 事業システムの理解 |
| 第9回 | マーケティングの理解 |
| 第10回 | 企業組織をどうつくるか |
| 第11回 | 組織の中で人を動かす |
| 第12回 | 財務と会計の役割を理解する |
| 第13回 | 企業評価 |
| 第14回 | 企業環境の変化と新しい経営学 |
| 第15回 | 演習のまとめ |
| 第16回 | 期末試験 |

到達目標

本演習の到達目標は、履修生に経営学の概要を理解させるとともに、大学での学びの姿勢や技術を修得させることです。社会人経験のない学生が、経営学の基本的事項について臨場感をもって修得することができるよう、レジメ以外の教材や資料からできる限り頻繁に今日的话题を引用します。

履修上の注意及び予習・復習

演習で取り上げるテーマをもとにレジメの該当箇所について議論する場合、履修者は積極的に参加することが求められます。演習に参加するにあたっては、事前に配布するレジメの該当箇所を読んでおくことが必要となります。遅刻はやむを得ない理由がある場合には配慮します。

評価方法

演習のテーマに関する発表内容、準備状況、議論への参画度等、演習に対する取り組み度合いを30%、期末試験を70%の割合で評価します。期末試験は学期中に取り上げたテーマに関して選択穴埋めあるいは記述式で解答を求めます。出題の意図を理解し、演習で学んだ内容を踏まえて論理的に解答しているかどうか重点を置いて評価します。

テキスト

テキストはレジメを使用します。参考文献は各講義で明示します。

授業概要

1年次の教養演習は、2、3、4年次と徐々に専門的な内容に進んでゆく最初の段階の演習である。「演習」とは、何かのテーマについて教員から講義を受けて理解して終わるものではなく、学生自らが何らかの目的やテーマに対して、何かの行動を起こして初めて成り立つものであると考えている。そこで、教養演習Ⅰでは最初に社会に出るために、就職するためにどのような人が求められているかを理解することにはじまり、そのための演習を行う。その際の題材は、経営に係わる資料を考えている。

大学4年間でどのように過ごし、どのような就職を目指すのかは、常に意識してもらうように情報提供し、演習してもらうつもりである。

授業計画

| | |
|------|---------------------|
| 第1回 | ガイダンス・キャリアとは？ |
| 第2回 | 働く意味を考える |
| 第3回 | 社会人基礎力の理解する |
| 第4回 | 社会人基礎力を身につけるための方法 |
| 第5回 | 資料（日本の人口・都市）を使用した演習 |
| 第6回 | 資料（日本の人口・世帯） |
| 第7回 | 資料（日本の人口・寿命） |
| 第8回 | 資料（日本の経済） |
| 第9回 | 資料（日本の産業） |
| 第10回 | 資料（日本の生活①） |
| 第11回 | 資料（日本の生活②） |
| 第12回 | 資料（日本のエネルギー） |
| 第13回 | 調べてきた内容を報告する① |
| 第14回 | 調べてきた内容を報告する② |
| 第15回 | まとめ |
| 第16回 | 定期試験 |

※ 人数等により進度と内容は随時調整します。資料は適宜、時事的なものに変更します。

到達目標

テキスト等の資料の内容を適切にまとめることができるようになる。
自分の意見を適切な文章で正しく伝えることができるようになる。
自分の意見を発言で他人に正しく伝えることができるようになる。

履修上の注意

テーマは上記のとおりだが、到達目標に示したように、講義ではなく演習なので、聞くだけの内容を考えていない。課題やグループワークも含めて受講者が積極的に発言等をしてもらう。

予習・復習

授業内容に応じた課題を予習し、他人の意見等を聞いてまとめる復習を予定している。

評価方法

平常点45%・定期試験55%程度で評価する。
なお、既定の出席回数に満たない場合には、原則として単位を認定しない

テキスト

未定。
参考文献は適宜紹介する。

授業概要

自分で問題を解決し、自分で調べ、考えるという勉強の仕方を学ぶ。

大学の授業の特徴は、答えを自分で探すことにあり、自分なりの答えをまとめることにある。こうした勉強の仕方は、社会人になった解き、自分で企画を立て自分で実践する際にも重要なことである。

授業計画

| | |
|--------|-----------------|
| 第 1 回 | 演習の運営について |
| 第 2 回 | 経済の基本的な考え方 |
| 第 3 回 | 今日の経済問題 |
| 第 4 回 | 経済記事を読む |
| 第 5 回 | 自分の問題関心について |
| 第 6 回 | 資料の調べ方 |
| 第 7 回 | 自分のテーマにあった文献を探す |
| 第 8 回 | 文献の紹介 |
| 第 9 回 | 文献を検討する |
| 第 10 回 | 文献について整理して報告する |
| 第 11 回 | 報告についての討議 |
| 第 12 回 | 足りない文献を探す |
| 第 13 回 | 自分のテーマを明確にする |
| 第 14 回 | テーマについてまとめて報告する |
| 第 15 回 | 検討会 |
| 第 16 回 | 課題レポートの提出 |

到達目標

問題関心を明確にして自分で調べ、考え、まとめる力を養う。

履修上の注意

問題関心を明確にすること。積極的に発言すること。

予習・復習

授業中に与えられた課題を行うこと。

評価方法

演習における報告と発言による。

テキスト

授業中に指示する。

授業概要

これから本学で4年間学ぶにあたって重要であると思われる経済学や経済現象の基礎を学びます。基本的には、ゼミ生全員が毎回指定された文献や資料を前もって読んできて、事前に決められた担当のゼミ生が報告資料を作成、配布したうえで発表し、その内容について全員で議論する形で、進めていきたいと思っています。したがって、演習に主体的に取り組む意欲のある学生を求めます。

授業計画

| | |
|--------|-------------------|
| 第 1 回 | 経済経営学部で勉強すること |
| 第 2 回 | 経済学とは何か |
| 第 3 回 | お金の機能とは |
| 第 4 回 | ドル、円、ユーロ |
| 第 5 回 | 家計、企業、政府 |
| 第 6 回 | 価格の決定メカニズム |
| 第 7 回 | ガソリンの価格はどのように決まるか |
| 第 8 回 | 株価とは何か |
| 第 9 回 | GDPとは何か |
| 第 10 回 | 雇用の問題をどう考えるか |
| 第 11 回 | 給料はどのように決まるか |
| 第 12 回 | 景気はどのように判断するか |
| 第 13 回 | 日本の高度経済成長期 |
| 第 14 回 | 日本のバブル期 |
| 第 15 回 | 最近の日本経済をどうみるか |
| 第 16 回 | 課題レポートの提出 |

到達目標

経済学や経済現象の基礎を理解したうえで、報告資料を適切に作成し、効果的なプレゼンテーションを実施できることを目指します。

履修上の注意

予習、復習をきちんとすることと、毎回出席することを求めます。

予習・復習

指定された文献や資料を事前に理解するとともに、各回のゼミ終了後に内容を復習することを求めます。

評価方法

ゼミでの発表や発言（50%）、課題レポート等（50%）に基づき、総合的に評価します。

テキスト

入門レベルのテキストを、初回に指示する予定です。

授業概要

本教養演習では、2年次以降から本格的に始まる経済学や経営学の勉強に備えて、「経済」とは何か、「経営」とは何か、について考える場を提供したい。そのために一番良い方法は、経済新聞を読むことであろう。経済新聞には、前日までに発生した経済の動きが迅速に報道されており、またそれまでに発生した経済上の事件に関して簡単な解説も掲載されている。

また、証券市場が開設された翌日には、その市場での取引の様子を株式欄を見ることで経済の状況を知ることができる。どうせ就職活動を始めるところには、経済新聞を読みこなしていなければならないので、1年次の段階でどのように経済新聞を読みこなすべきか、について知っておいたほうが良いように思う。

授業計画

| | |
|--------|----------------------|
| 第 1 回 | はじめに（本演習の進め方） |
| 第 2 回 | 経済新聞の歴史をたどる |
| 第 3 回 | 経済新聞に掲載されている記事とは何か |
| 第 4 回 | 自分の興味のある産業の記事を読んでみよう |
| 第 5 回 | 実物取引（金や石油）の記事はどこにあるか |
| 第 6 回 | 経済新聞における文化欄の役割 |
| 第 7 回 | 経済新聞に掲載される小説の特徴 |
| 第 8 回 | 株式欄の読み方（1） |
| 第 9 回 | 株式欄の読み方（2） |
| 第 10 回 | 株式欄の読み方（3） |
| 第 11 回 | 株式会社とは |
| 第 12 回 | 経済において株式市場が重要なわけ |
| 第 13 回 | どのような会社の株が良い株なのか（1） |
| 第 14 回 | どのような会社の株が良い株なのか（2） |
| 第 15 回 | 株式市場の発展に果たした経済新聞の役割 |
| 第 16 回 | 試験 |

到達目標

本演習の目的は、経済新聞を読みこなすことによって、経済や会社がどのような原理や原則で動いているか、について知る能力を蓄えることである。知りたい情報が経済新聞のどの部分に書かれているのか、を理解できたら目標は達成されたといえる。

履修上の注意

経済新聞を自宅ですべて持っている人は、その新聞を持ってきてもらいたい。自宅ですべて持っていない人は、駅売りのその日の経済新聞を買って持ってきてもらいたい。

予習・復習

経済新聞をよく読むこと。できれば自宅ですべて持ってきてもらい、毎日目を通せば、十分な予習と復習になる。

評価方法

毎回の授業で受講者に多く質問をするので、それに的確に答えられるかどうか、で判断する。また、節目節目で小テストをすることも考えられる。

テキスト

その日の経済新聞を持ってきてもらいたい。どの経済新聞であるかは、問わない。ただし、私は一番よく読まれている経済新聞を持参するので、同じものであれば理解はしやすいものと思われる。

授業概要

教養演習の課題は、大学で学ぶ目標をしっかりと持つこと、学ぶ楽しさを知ること、及び、読むこと、調べること、書くこと、報告することなど今後必要なスキルを修得することにある。大学で学ぶには、自分で自分の課題を見つけ、考え、解決に向けて進む意欲を持つことが大事になる。

授業計画

| | |
|------|-------------------------|
| 第1回 | 概要 |
| 第2回 | 大学を知る |
| 第3回 | ノートのとり方を学ぶ |
| 第4回 | テキストの読み方を学ぶ |
| 第5回 | レポート作成法を学ぶ |
| 第6回 | パソコンやスマホで情報収集する |
| 第7回 | 新聞で情報収集する |
| 第8回 | 時事問題を考える |
| 第9回 | 図書館ツアーの実施、ネット検索などの方法を学ぶ |
| 第10回 | 議論の仕方を学ぶ |
| 第11回 | プレゼンテーション①準備 |
| 第12回 | プレゼンテーション②資料作成 |
| 第13回 | プレゼンテーション③発表 |
| 第14回 | プレゼンテーション④発表 |
| 第15回 | レポート作成 |
| 第16回 | 期末テスト |

到達目標

- ・大学の施設・設備を有効に活用できるようにする。
- ・自分の課題について調べ、意見をまとめ、表現することができる。
- ・政治や経済の時事問題が企業人・社会人にとって不可欠の問題であることを知る。
- ・大学での学び方を体得する。

履修上の注意

1年次の学生は全員履修である。この演習の目的は、大学で学ぶための目標をしっかりと持つことにある。このため、よく調べて自分の意見をまとめ、授業時間内には仲間同士で積極的に議論して欲しい。なお、学外活動を行う場合がある

予習・復習

予習・復習は積極的に行い、授業中に指示された課題は必ず提出すること。

評価方法

授業への取り組み、課題の提出状況、レポートまたは試験により総合的に評価する

テキスト

指定しない

授業概要

本演習では、法律、経済、経営、会計について、浅く広く話題を提供する。内容はその時々話題になっていることを含め、受講生には毎回小グループを作ってディスカッションをしてもらい、進行役と報告役を決めてその結果を報告してもらう。演習の目的は、自分の意見を持つこと、それをわかりやすく説明すること、他人の意見をじっくり聞き色々な考え方があることを認識すること、である。なお、世の中の状況や受講生の希望によって、授業計画を変更する場合がある。

授業計画

| | |
|------|---------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション（大学の仕組みを理解すること、自己紹介など） |
| 第2回 | 日本国憲法と三権分立 |
| 第3回 | ユーチューバーとSNS |
| 第4回 | 企業会計と日商簿記検定の関係 |
| 第5回 | 人工知能（AI）の進展と将来なくなる（かもしれない）仕事 |
| 第6回 | 金融と財政の基礎 |
| 第7回 | 地球温暖化と経済活動の関係 |
| 第8回 | 預貯金と投資の仕組み |
| 第9回 | 情報公開と個人情報保護 |
| 第10回 | 先進国首脳会議（G7）とG20、そして国際連合 |
| 第11回 | 小説から法律を学ぶ |
| 第12回 | 小説から経済を学ぶ |
| 第13回 | 小説から経営を学ぶ |
| 第14回 | 「骨太の方針」と政府の経済政策 |
| 第15回 | 暮らしと税金 |
| 第16回 | 期末レポートの提出 |

到達目標

1. 4年間の充実した学生生活を送るためのベースを構築すること
2. 社会科学と人文科学、自然科学の体系を理解すること
3. グループディスカッションをスムーズに行うこと
4. 学術的な文章を読めるようになること

履修上の注意

受け身になるのではなく、主体性を持って行動することが求められる。自分の意見を持つ際、思い付きや感情ではなく、論理的に考えることを身につけることを意識してもらう。他の学生の意見を聞いて、自分と違うのはどの部分かを意識し、その考え方を理解すること。

授業計画は決めているが、世の中の状況や学生の希望があれば適宜変更する予定である。できれば当日の朝、新聞に目を通すか、TV又はネットでニュースを確認してから参加してほしい。

予習復習

原則として、前もって資料を紹介する（又は渡す）のでよく読んだ上で持参すること。毎回の授業の後、必ず復習することが求められる。

評価方法

平常点70%、期末レポート30%

テキスト

テキストは使用しないが、期間中1冊以上の書籍を購入するか、情報メディアセンターから借りてもらうことにしている。文献については適宜紹介する他、参考資料を配布する場合がある。

授業概要

本演習では、「簿記」の学習を通じて資格試験などの**勉強方法のコツ**を指導します。在学中に公務員・教員や資格試験に合格したい学生は受講してください。大学で何か資格ぐらいは取得しておきたいと思う学生は沢山います。では、どうすれば資格試験に合格できるのか。この「演習」ではその勉強方法を体得してもらいます。高校時代の勉強方法に疑問があった学生や勉強を苦手にしてきた方にお勧めです。

試験勉強の要点は、**1.合格の目標を明確にする。2.目次を見て説明できる。3.過去問題集を制覇する。**この3点にあります。本講では、将来、公務員や高校教員（商業）、公認会計士、税理士、国税専門官、そして大学院進学希望者などを対象に指導いたします。

授業計画 (予定)

| | |
|------|---|
| 第1回 | ガイダンス：勉強と学問の相違は何か？ 勉強には目標があるが、学問は無限である。 |
| 第2回 | 資格試験勉強のコツ→ DVDやe-ラーニング反復学習で「簿記の全体像」を構築せよ。 |
| 第3回 | 目標の明確化＝11月の日商簿記3級合格 / 学習カレンダーに勉強時間を「見える化」する |
| 第4回 | 自己講義の反復＝目次をみて自分で説明できる / テキストと問題集の使い方の相違 |
| 第5回 | 簿記一連の流れを頭に叩き込め / 勉強時間は早朝にするのが一番である |
| 第6回 | 貸借対照表と損益計算書の勘定科目を音読し、その構造を筆写しよう。 |
| 第7回 | 情報メディアセンターを使い倒せ・・・個別ブースを朝から占有し勉強の場所を確保しろ！ |
| 第8回 | 仕訳のコツ＝ 借方と貸方を原因と結果で考える。簿記は仕訳で始まり仕訳で終わる |
| 第9回 | 仕訳と転記の基本＝ 仕訳を素早く転記する練習をする、反復学習にとにかく耐えろ |
| 第10回 | 中間試験実施：成果を出す勉強方法のコツとは？ 合格したイメージを持とう！ |
| 第11回 | テキスト300頁を読み込むコツとは →目次把握 →速読3回 →論点学習 →辞書替わり |
| 第12回 | 問題集を完遂せよ・・・ やさしい問題から解答解説をそのままノートに写すこと |
| 第13回 | 就職は「キャリアデザインI・II」を受講せよ、就活のノウハウはここにあり・・・！ |
| 第14回 | 総合問題に挑戦(1) 8ケタ精算表をゲーム感覚で解答しよう |
| 第15回 | 総合問題に挑戦(2) 合計残高試算表を得意分野にすれば合格は近いぞ |
| 第16回 | 定期試験実施 |

到達目標

「日商簿記検定3級試験」の合格水準に到達すること。
 (「日商簿記検定3級試験」の全国平均合格率：2019年2月実施55.1%、6月実施56.1%、11月実施43.1%)

履修上の注意

1. 春期「初級簿記」を必ず履修登録すること。
2. 勉強時間を習慣化すること。1日に3時間、1週間で20時間、1か月で80時間の勉強。
テキストの目次をみて自分で説明できるようになること。
3. **DVDやe-ラーニングで繰り返し学習せよ、不明箇所は何度でもみること。**
4. Campusノート(コクヨ)と電卓12桁を用意すること。(スマートフォン不可)
5. 成績順による座席指定制。
6. 交通機関遅延以外の遅刻は認めない。

予習・復習

- ・簿記のテキストと問題集を毎日3時間勉強してください。合格者はみんなもっとやっている。
- ・インプット＝テキストの読み込みを大変でもやる、アウトプット＝問題集の答えを暗唱するくらいやる。
- ・資格試験の勉強は、自分との戦いです。**あきらめないで続けること**です。
- ・『日本経済新聞』を定期購読し、毎朝1面、2面、3面は必ず目を通すこと。社会を見る目を養う。

評価方法

- ・授業への参加意欲と中間試験(50%)、定期試験(50%)で総合評価をします。
- ・授業態度不良者は「不可」とする。

テキスト

- ①TAC出版編集部『みんなが欲しかった 簿記の教科書日商3級 商業簿記第8版対応DVD』TAC出版
- ②東洋経済新報社(2019)『会社四季報業界地図2020年版』東洋経済新報社